

平成29年度 西都市総合教育会議 議事録

1. 日 時 平成29年9月22日（金）午後1時

2. 場 所 本庁舎4階 第4委員会室

3. 出席者

(構成員)

西都市長 押川 修一郎

教育委員会

教育長 川井田 和人

委員（教育長職務代理者） 橋口 玄郎

委員 池野 康己

委員 杉尾 優子

委員 連尺野 智子

(構成員以外の出席者)

総合政策課長、総合政策課長補佐、総合政策課企画政策係長

総合政策課企画政策係主事、教育政策課長、教育政策課長補佐

教育政策課教育総務係長、社会教育課長、社会教育課長補佐

社会教育課社会教育係長

4. 協議・報告事項

(1)コミュニティスクール（学校運営協議会制度）について

(2)学校再編について

(3)都於郡城跡ガイダンスセンターについて

(4)その他

5. 発言内容：以下のとおり

発 言 者	内 容
<p>市長</p> <p>教育政策課長補佐</p>	<p>まず、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について、担当課より説明をお願いします。</p> <p>横書きの資料になりますが、資料1の1ページをご覧ください。左側に図がありますが、コミュニティ・スクールとは保護者や地域住民が一緒になって学校運営の方向性について話し合う組織のことをいいます。これまで学校評議員という制度はあったのですが、それよりも一つ踏み込んだ一定の権限を持った組織として学校運営に参画するものです。いかにして、地域、保護者と一体となって子供たちを育てていくかということが課題となっています。その解決の糸口として、このコミュニティ・スクールを国も推進しており、全国的に実施されています。続いて10ページをご覧くださいと宮崎県の取り組み状況が載っております。えびの市、高鍋町、小林市、都城市、日向市と、本県では4市1町が実施しています。全国でみると約3600校が導入済ですが、学校運営に一定の権限等がありますので、どういった体制が本市の学校には適切なのかということを慎重に検討していく必要があります、また、本市には地域づくり協議会という既存の組織等もありますので、そういった組織と今後どのように連携し、コミュニティ・スクールという形に持っていくのかということも検討が必要ではないかと思っています。</p> <p>これは教育委員会の側からしますと、学校からの要望を受けてということになるのですが、市長部局の側からしますと、先ほどの地域づくりの視点、あるいは地方創生の視点で見た時に、今後の学校のあり方というものは議論すべき内容ではないかということで本日このような議題を提案したところであります。</p> <p>今後どのような形で地域と連携した学校教育を推進していくのかということについて、ご意見をいただきたいと考えております。よろしく申し上げます。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま説明がりましたが、コミュニティ・スクールという形の中で、学校だけでなく地域の方々にも入っていただき、これからの学校教育をどのような体制・形でできればいいのかということについてご協議いただきたいということです。本市には地域づくり協議会もあるため、協議会も含めてどのような体制づくりをするかということについて、皆様方からご意見があれば出していただけたらと思います。先ほど教育政策課長補佐からありましたが、県内4市町での現在の取組状況や事例等があれば報告していただけると協議に入りやすいかなと思います。</p>
<p>教育政策課長補佐</p>	<p>資料1の1ページをご覧ください。中ほどにコミュニティ・スクールの主な3つの機能として「学校運営の基本方針を承認する」、「学校運営について意見を述べる」、「教職員の任用に関して意見を述べる」とありますが、県内で実施している自治体は、主に「学校運営の基本方針を承認する」、「学校運営について意見を述べる」の2つを行っています。例えば、放課後の学習支援や日常授業の中での学習支援など、</p>

<p>市長</p>	<p>先生方が授業をする中で1人1人になかなか目が届かないため、地域の中でご協力いただけませんかというようなことを、この協議会を通じて地域住民に募り、学校の応援的な活動をしていただくという形が多いように伺っています。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>現在県内で実施されている状況としては、今、話があったような方向で進められているということです。地域の方々からの支援として、放課後や土曜・休日にどういった関わりをするかということですが、今までにもやってらっしゃることでいいでしょうし、こういったことはどうだろうかということもそれぞれに意見を出していただければと思います。</p>
<p>池野委員</p>	<p>今までの学校評議員の仕事をもう少し踏み込んだ形と考えればいいのかと思うのですが、意見を述べる時に学校側への負担が多くなることはないのでしょうか。例えば、雨の日は少年団を学校で勉強させて欲しいとか、学校の方から地域づくりの活動に参加して欲しいとか、そういった負担は増えてこないのでしょうか。</p>
<p>教育政策課長補佐</p>	<p>そういった声があがる可能性はあるかと思います。ですから我々としても、学校にとってマイナスになるような組織にはしてはいけないと思っていますので、今年度先進地等を回り、現状や課題、それから個人的に一番大事だと思うのが人選の部分なのですが、これらについて研究したいと考えております。それらを踏まえた上で、本市への導入がどうなのかということを慎重に検討していくべきではないかと考えております。</p>
<p>教育長</p>	<p>その件で補足ですが、地域づくり協議会や保育園などに対し、具体的な事例を示し協力してもらえませんかと投げかけ、会合を持ちながら、じゃあやってみましょうと地域と連携した形でやっていかないと、今池野委員が言われたようなことになると思いますし、具体的な事例で足元を固めながらやっていく方が間違いはないと思いますし、先進事例等を聞いても、うまくいっているんでしょうがうまくいっていないところもある、そういったことを全部取り入れながら具体的なものからコミュニティ・スクールのあり方を考え積み上げていくという方が正解だと思うんですね。なので、そういったやり方を本市ではとれたらいいかなと思います。</p>
<p>橋口委員</p>	<p>私は常々こういうデータを見るときは、日本の人口が1億2000万人、宮崎県は110万人ということで、100分の1あればいいかなと見ているのですが、その割合からするとかなり多い数字ですよ。何が言いたいかというと、遅れずにやろうということではなく、慎重に検討し、これなら西都市でできるという着地点を見出した上で取り組んでいただけたらありがたいです。どんどん周りが進めていくと、遅れたらいかんということになってしまいがちですが、失敗することもないとは言えませんので、よろしくお願ひしたいと思います。</p>

教育長	<p>学力が高いといわれる秋田県と福井県は一切やっていないんです。だから今おっしゃられたように焦ったらいけないと思っています。宮崎県、西都市らしいやり方で、具体的なものから積み上げていくしかないと思うんですね。教職員の任用に関しての意見についても、どこまで言っているのかということも、積み上げて行く中で決めていかないと、形ができてしまってからやるとなると取り返しがつかないことになると思います。多分秋田県や福井県も同じように慎重にみているんだと思います。</p>
池野委員	<p>今、地域づくり協議会で学校での出前授業などはある程度受け入れられていて、積極的に協力してもらっている状況にあります。また、農協青年部からはお米や蕎麦について講義していただいたりと、いい方向に向いていると思うんですね。この流れを潰さないようにはしなくてはならない。コミュニティ・スクールを立ち上げたから今までのいい流れを切ってしまうようではだめだと思うんですね。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今までやっているやり方と、これから見えてくるもの、見えないもの、いろいろあると思いますが、やりながら出てくるものだと思いますので、今地域や学校で取り組んでいるものは継続しながら、新たにどのようなものができるかということを考えながら作り上げていくという方向で進んでいけば、マイナスにはならないと思います。今後もしろいろと協議事項が出てくるとはと思いますが、議論や検証をする中で新たな内容を含めていただくという形の中で進めていただきたいと思います。それでは、時間も参りますので、意見があればまた最後で受けたいと思います。2つ目の協議事項であります学校再編について、担当課より説明をお願いします。</p>
教育政策課長	<p>それでは学校再編についてですが、資料は3種類ご準備しております。</p> <p>まず資料2-1の「西都市立小中学校の学校再編に関する西都市教育委員会方針」ですが、これは平成23年8月30日に教育委員会として示したもので、現在取り組んでおります連携型及び一体型の一貫教育の取り組みを進めていくというものです。昨年度、学校再編検討委員会を開催し、この方針について見直しが必要かどうか議論したところですが、当分の間はこの方針に沿った形で進めていくということになりました。ただ、学校再編については今後も継続して研究・検討していくという意見が出たところです。</p> <p>次に資料2-2であります、「西都市の人口及び児童・生徒数の推移」を示したものです。2ページ以降は1ページの数値をグラフ化したものですので、1ページで説明させていただきます。まず表内に縦の二重線がありますが、二重線より左側が実績、右側が今後の推移を統計の手法で推計したものです。全体の人数としては、平成29年度の小学校の合計が1,632名、中学校の合計が813名です。推計値ですと、20年後の平成49年度は小学校の合計が1,066名、中学校の合計は527名、その5年前、平成44年度は小学校の合計が1,173名、中学校の合計は582名となっています。特に中学校におきましては、15年後から20年後には、市内の中学生の</p>

	<p>人数が平成 24 年度の妻中学校の人数である 557 名とほとんど変わらない状況になるという推計が出ています。</p> <p>最後に別添 1 の資料ですが、これは平成 27 年に文部科学省が作成した「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」です。これは学校再編を進めることを促すものではなく、学校を設置している市町村に対し、学校のあり方をきちんと考え、地域とともにある学校づくりをしていくべきということで作られた手引きです。6 ページの「2 章 適正規模・適正配置について」にあります。国では 12～18 学級を標準としており、6 ページ下段では学級数が少ないことによる学校運営上の課題、7 ページ下段では複数の学級を編制できる場合のメリット、そして 8 ページの上段では教職員数が少なくなることによる学校運営上の課題、それらが児童生徒に与える影響について書かれております。このような状況を鑑みると、9 ページの中段にあります。国として望ましい学級数の考え方として、小学校では 1 学年 1 学級以上であることが必要であり、教職員の数を考えると、1 学年に 2 学級以上あることが望ましいと捉えられています。そして中学校では、少なくとも 1 学年 2 学級以上、そして小学校と違い 1 人の教職員が 1 教科担当するという指導の方法から考えると、少なくとも 9 学級以上確保することが望ましいという捉え方がされています。本市の現状としては、小学校では 1 学年 1 学級以上がほとんどですが、銀上小学校と茶臼原小学校には複式学級が存在します。また、中学校では妻中学校以外の中学校については、ほとんどの学校が 1 学年 1 学級であり、記載されているような課題が顕著になってきているのではないかと懸念されております。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>平成 23 年 8 月 30 日の本市における小中学校の学校再編に関する教育委員会としての方針では、連携型及び一体型の小中一貫教育を進めていくということであり、児童生徒数が減少する中で、今後も引き続き学校再編についての協議は行うということです。資料にもありますが、中学校の現生徒数が 813 名、5 年後には 706、そして 15 年後には平成 24 年の妻中学校の生徒数くらいに減ってくるという報告でありました。平成 27 年に文部科学省より手引きが示されたところではありますが、学校再編について、皆さまが考えていらっしゃることをそれぞれに出していただければと思います。</p>
<p>橋口委員</p>	<p>平成 23 年にこの方針を決めたのは、この方針で 10 年くらいは乗り切れるだろうという感じであったかと思いますが、7 年を過ぎ次の課題にぶつかっているという状況だと思います。心配なのは中学校の生徒数なのですが、60 人より少ない学校は 1 学年が 20 人に満たない学校ということになります。よく話題になるのは部活動ですが、学校はその他にもいろいろな活動があり、生徒数がそのくらいになるとできない活動が多々あります。統計学的には 100 人くらい数があると、だいたい半分半分くらいの数になるようですが、20 人前後になるとどちらかに偏ってしまうようです。そうすると、全く活動ができないだけでなく、子どもたちにとっても精神的な負担が生じます。女子は割と対応できるようですが、男子は 14～15 名の中に 1～2</p>

	<p>人となった場合、なかなか難しいという場面があります。教育委員会の中では常々申し上げておりますが、ある程度人数が揃うような再編について考えておかないと、気が付いた時にはもうどうにもならないということになり、先生方の努力や地域の協力だけでは解決できない場面がたくさん出てくるのではないかと思います。ただ実際やるとなると、地域では小学校も中学校も残してほしいという意見が圧倒的多数だと思いますので、そのあたりの兼ね合いを考えるためには、表面だっただけでは難しいにしても、どこかでシュミレーションしながら検討を深めていただけないかなというのが率直な感想であります。そしていざやるとなると、市長のご理解をいただく必要もありますし、そういったところを期待しながら、今後取り組んでいただけるとありがたいかなと思っております。</p>
池野委員	<p>部活動が成り立たず、これから子育てをする若い人たちが地元に住み着かなくなると、学校の衰退が加速していくと思うんですね。子どもを持つ若い人たちが安心して子育てできるような状況を早めに作ることで、生徒数の現状維持であったり、ましてや増加の可能性も僕はあると思うんですね。こういったことも考えてもらいながら、早めに方向性を打ち出してほしいなと思います。橋口委員も言われたように、やろうとなったときには予算を伴いますから、補助金活用などのアンテナを張りながら、もし活用できるような補助金なんかができるときには、パッと手をあげて引っ張ってこられるような、そういう状況もつくっておいてほしいと思います。</p>
市長	<p>私も言わせていただきますが、この数字を見た限り、小学校はこの状況でいいと理解しているのですが、中学校では三納、三財、都於郡、穂北も含めて対策をしないと部活動ができないということになり得ますし、中高一貫の私立学校の勧誘が続けば続くほど子どもたちが流れていってしまいます。せっかく妻高校と西都商業高校が統合するのに、本市の宝である子どもたちが中学校からいなくなってしまうと本市にとって非常にマイナスだと思います。今子育てをしている人たちやこれから子どもを産み育てる人たちの声をいかに取り入れ、そう遠からざるうちに方向を出す形にしなければと思います。先ほど橋口委員が言われましたが、平成23年当時は連携型及び一体型小中一貫教育であれば、地域の中での子育て、公共施設の存続ができましたが、今後5年先を見たとき、果たしてそれが結果としていいのかと考えると、何らかの形で議論をやっていくべき時にもう来ているのではないかと思います。これは地域全体で議論しないと、一部の人たちで議論して決めて地域に持っていくと大変なことになりますから、地域の方々と議論する場を今後担当課に計画立てていただき、少しずつ議論の場を設けていくことも我々の役割ではないかと考えています。子どもたちが地元の高校まで出て、その後大学進学あるいは就職しても地元に戻ってきてくれるようなことをやっておきたいなと思います。中学校から市外に出られると地元と同級生もいないという状況になりますので、中学校・高校というのは絆も一番強い時期ではないかと思います。</p> <p>他にいかがでしょうか。今日決めることではないので、この会議の中でそれぞれ委員の皆さまと私、行政側といいますか、この機会にいろいろ意見を出していただき</p>

	たいなと思います。
橋口委員	必要ならば大胆な予算もつけていただけるということでしょうか。
市長	そういったことも考えていかないとこれから大変じゃないかと思うんですよね。
教育長	今のままだと市外の中学校に行く生徒がもっと増えてくるだろうなという不安はあります。何らかの手を打つことは非常に大切だと思います。
池野委員	やっぱり各地区に若い人がいるということが大事ではないかと思うんですよね。各地区に若者が残れる状況を作ってやるのが行政の力だと思います。
連尺野委員	池野委員が言われたように、人がいるから学校が必要になる、今までは各地域に人がたくさんいたので、学校が必要でした。でも父親・母親世代の若者たちが県外・市外などで就職し、通えない距離ではないのに宮崎市内に住むという状況がある中で、地域に人が根付くということもやはり大きな問題だと思うんですよね。若者が住み着かないという現状なので、教育委員会だけでなく他の部局も巻き込みながら魅力ある地域づくりを並行してやっていくべきだと思います。それが間に合わなければ学校再編の段階で、地域を巻き込まないと、子どもがいないからどうしようということでは先に進まないと思うんです。1日にしては成らずということとはよく分かっているのですが、そういったことも踏まえながら、他の部局と連携を取りながら少しずつでも確かな歩みをもって進めていければと思います。
杉尾委員	私の娘の同級生は宮崎市内に住み西都市に仕事しに来ているのですが、やっぱりそういった方たちに西都市に住んでもらい結婚し子育てしてもらうのが一番だと思います。住みやすい西都であれば、子どもたちは帰ってくると思います。私の娘も今奨学金の関係で県外に行ってますが、親としては西都市で就職し、生活をというのが願いです。今の若い子たちはとりあえず就職、とりあえず都会に、といいますが、都会が必ずしもいいというわけではないですし、都会に出た子の中にもやっぱり地元がよかったという声をたくさん聞くので、帰ってくる見込みのある子たちもいるので、子育てがしやすい環境を整えたり、学力向上であったり、今すぐにはできないと思いますが、徐々にできていけばと思います。
市長	やはり、橋口委員からありましたが、1学年20人ほどの状況が続けば、学校の存続すら厳しいと思います。違う学校に行きたい、市外の学校に行ったほうがマシだとなるのが1番怖いです。今子育てをしている方々と意見交換する中で、どういう状況であればここで子育てをするのかということ聞き取ることが必要だと思います。新しい妻高校がスタートするわけですから、地元で高校があるということも小中学生が認識し、その後大学や専門学校に進学したとしても、将来的には西都で就職できる環境づくり、第一次産業を含むある程度の受け皿をしっかり作るという

	<p>ことが帰ってきてくれる条件になると思います。こういったことをどう発信していくか、PRしていくか、誰がするかということ、もちろん私もしますが、教育委員会の皆さんであったり、地域づくり協議会であったり、区長会であったり、どのような形の中でしていくかということも含め、西都の子どもたちのためにやっていかないといけないと思ったところです。私も本音としてはできるだけ公共施設を残したいのですが、あまりにもそれを引っ張ることによって、何もかもに対応できなくなるということの方が厳しいのかなという思いもあります。だから、子育てをされている方を中心に議論してもらい、地域の方は子どもたちのためにということで説得していかないと、時間がかかれば何も解決しないまま当事者が変わっていただけだと思います。生活に便利なところで第二の人生を始めようかなという方も結構いらっしやると聞くのですが、いったん便利さに慣れるともう子育てもここでいいなとなっていきかねないという懸念があります。こういったことは教育委員会で議論する事項ではないので、こういった場、あるいは市長部局で人口増対策も含めた中で考えていただけるとありがたいなと感じます。</p>
池野委員	<p>やろうと思えばいろいろ意見が出てくるでしょうから、ぜひお願いしたいと思います。</p>
橋口委員	<p>学校はこういったことを望んでいる、たとえば若者を西都に住ませるためにはこんな手があるよとか話をさせてもらいたいですね。教育委員会で考えていても始まらないし、ましてや総合政策課だけでいろんな案が出てくるわけではない、具体策が出ないことを今懸念されているので、議論する場をいろいろ工夫することが大事かと。再編に取り組むということであれば、いつ頃から動き始めるのですか。ここで話をしたから動くということではないですよ。</p>
市長	<p>まずは学校を通して、いろんな場所で地域の方々に現状を知っていただくということに取り組む必要があるかと思います。地域でも、やっぱり再編が必要なんじゃないかという意識の醸成が必要ではないかと思います。</p>
池野委員	<p>子どもたちの親が話し合うのがいいと思います。話し合うことでどんどん問題も出てきて、じゃあやらなくちゃいけないよね、という雰囲気が出てくるのではないかと。</p>
教育長	<p>おっしゃられるように当事者をどうやって引きずり出すかです。どう巻き込み、今言われたような情報をどう提供していくか、その情報に対してどういう反応をされるのかということを見ながら、最初から再編やりますよ、というのではなく、投げかけていき、地域からの盛り上がりをどうやって引き出すか、ということが来年の一番大きな仕事ではないかと思います。そして、できれば具体的な実践をしながらやっていけば変わっていくんですよ。何もしないと議論が空論で終わってしまうので。</p>

池野委員	私の子どもが中学生の時に、三納・三財・都於郡3校合同の駅伝大会を校長先生方が企てて、親も乗っかって、親も走ったと思うのですが、そういった具体的な動きが大事じゃないかなと思います。
教育長	今は具体的な動きがないと見えないと思います。
橋口委員	運動会と学校訪問で三納小学校と三財小学校に行ったら、三納小学校は2つの学年が11名、三財小学校も1つの学年が12~13名と、その子たちが中学校に入ったら活動できないんですよ。だから、その子たちが中学校にあがる前にそういう機運が起これば大変ありがたいと思います。
教育政策課長	三納小学校は6年生と2年生が11名、三財小学校は1年生が16名です。
橋口委員	20名に満たない学年が中学校にあがったら何にもできないですよ。
教育長	数が少なくなると不思議なもので男女が偏るんですよ。男が3名、女が8名という具合に。3と8だったらそんなに変わらないけど、11しかいない中ではものすごく大きな違いがあるんですよ。
池野委員	これは本当に重大な問題だと思うんですよ。やっぱり引っ張り出して、議論してもらうのが一番いいんじゃないかと思います。
市長	それぞれ7地区の中で学校現場や地域づくり協議会の方たちに声をかけ協議しながら、いろんところで問題提起していただき、なるべく早い時期に結論を出していかないといけないと思います。引き続き教育委員会と市長部局とで連携しながら、今後も再編のあり方を議論していくということをお願いしたいと思います。
市長	3つ目の協議事項であります都於郡城跡ガイダンスセンターについて、担当課より説明をお願いします。
社会教育課長	資料3をご覧ください。(仮称)都於郡城跡ガイダンスセンターは、平成24年度の伊東マンショ没後400年記念事業を機に機運が高まり、その翌年にガイダンスセンターの建設計画を策定しています。このガイダンスセンターは展示ガイダンス機能、ネットワーク拠点機能、体験・学習機能、地域活性化拠点機能、便益・サービス機能を兼ね備えた地域活動拠点・文化的・情報発信施設として建設を行うことにしております。現在の進捗状況ですが、昨年建物と展示の基本及び実施設計、用地測量、地盤調査を実施しています。今年度はガイダンスセンター建物の建設、展示品の一部製作に着手したいと考えています。来年度にはガイダンスセンター建物と展示品を完成させ、開館したいと思います。ガイダンスセンターの概要ですが、場

所は都於郡跡大駐車場で市有地です。図面は資料3の4～5ページにあります。面積は540.74㎡、鉄筋コンクリート造、平屋建てです。都於郡城跡、マンショ、ナウマン象の3つをコンセプトとして展示を行う予定です。マンショについての資料はほとんどが複製品となります。続いて主なスペースですが、6ページに図面をつけています。常設展示室、企画展示室、特別展示室、管理事務所、講習室、便所、倉庫、そして特別展示室は耐火・耐震・防音・防湿の対策を施したものとなります。重要なものを借りてくる際にはこういった設備がないとおそらく貸してもらえないと思われ、必要だと考えます。この他に小さな売店も整備する予定です。駐車場は42台、身障者用が3台、大型が2台止められるスペースです。運営体制については、指定管理を含め、建設検討委員会及び関係課等と協議しながら決定する予定としております。昨年の12月に教育委員会で報告した際には、運営主体は地域づくり協議会ということをお話ししましたが、前市長の時にそのようにやろうと話していた経緯があったものですから、新市長になり、改めて指定管理も含めて協議しながら決定するということになりましたので、「地域づくり協議会も含めて」という文言は外しております。そして入場料は原則として無料としております。小中学校でさいと学などの学び場としてガイダンスセンターを「生きた教材」として活用していただければと思います。ナウマン象が発見されたところの発掘体験等も計画しており、さらに年に1～2回程度企画展を行い、情報発信したいと考えております。たとえばマンショ肖像画を再度借りたいという意見も出ておりますし、マンショ直筆の手紙がありますので、コピーかデータになるかとは思いますが、紹介したいと思います。長崎やキリスト教関係のもの、長崎博物館の資料も借用して展示したいと考えています。さらに、小中学校でのイベントはできるだけガイダンスセンターを活用していただきたいと思っています。資料に連携・情報発信等とありますが、このはな館、西都原考古博物館、商工観光課、観光協会と連携を行い実施したいと考えています。商工観光課、観光協会では、情報発信するものの中にガイダンスセンターの情報を掲載していただいたり、観光コースの中に含めていただいたりということを考えています。また、このはな館では年に数回、館内で小企画展が行われているようですが、この企画展に都於郡城跡、マンショ、ナウマン象関係の資料も展示させていただき、ガイダンスセンターへの誘導を図りたいと思っています。

最後に、9月議会文教厚生常任委員会の委員長報告で、ある委員から、見直すべきところは見直し、極力経費節減に努めてほしい、大型事業になるため事業計画等について庁内協議を重ね、精査を行い、規模縮小を検討していただきたいという意見が出ております。費用対効果や施設がお金を生まないなどと言われているようですが、社会教育課の対応としては、これまでに教育委員会をはじめ、庁内協議、3月・6月議会にも書類や図面等の資料を示しており、また6月議会では全員協議会でも説明をしております。その際に、できるだけ経費節減をということだったのですが、地元の業者を活用してということでしたので、私の考えとしては地元事業者をできるだけ活用したいと考えています。今の段階としては、昨年度既に実施設計を終えておりますので、審査会を経て仮契約、12月議会を終えて本契約という段取りにな

	<p>っています。建物については予算的に落とせるところは落とし、当初3億ほどだったものが現在2億2,700万ほどになっております。これ以上の建物の経費削減はなかなか難しいと考えておまして、これから発注する品物や展示品などの経費をできるだけ削減したいと考えています。ただ、建物の規模縮小となると、実施設計からやり直さないといけなくなり、昨年の実施設計を使えなくなってしまいます。昨年度900万ほどの費用を使っておりますがそれが無駄になることとなります。今年度実施設計をやり直し、それが来年度にもかかるとなれば、建設が大幅に遅れます。私たちの判断としては、建物に関する経費削減は困難であるため、展示品及びその他発注品の中で経費を抑えられるものは抑えることで対応したいと考えています。先ほど示したように、ガイダンスセンターに多くの人を呼び込むイベントを行い、外ではテントを張ったり、物産販売をしたりなど、間接的に地域の方が潤うように、還元できるように努めたいと考えています。予算について3ページに載せていますが、トータルで3億5,383万3,000円です。起債と交付税で2億2,750万、一般財源が1億2,633万3,000円です。</p>
市長	<p>ありがとうございました。ご意見等があればお伺いしたいと思います。</p>
池野委員	<p>建設予定地の近くにある「まんしょの里」とは何でしょうか。</p>
社会教育課長	<p>元々ある飲食店です。</p>
橋口委員	<p>詳しいお金の使い方は素人なのでよく分かりませんが、ガイダンスセンターの設置については、担当者を含めて市議会、教育委員会で説明がっております。その中でいろいろと意見を交わした経緯がありますが、これが白紙撤回になることはないにしても、さらに費用を削るとなると、今までやってきたのは何だったのだろうかという気持ちはあります。できればこのまま進めていただいて、平成30年には市内外の方たちに胸張って、開館しましたといえる状況になっているとありがたいです。</p>
杉尾委員	<p>2ページに「ナウマン象が発見されたころの発掘体験等」と書いてありますが、これは屋内で行うのでしょうか。</p>
社会教育課長	<p>屋外です。都於郡城の近くでナウマン象が発見され、記念碑がたっており、ナウマン象の南限ということで新聞でも取り上げられました。その時の資料が現在歴史民俗資料館に展示してありますが、その周辺の発掘調査を行いたいと考えています。</p>
杉尾委員	<p>雨が降ってもできるのでしょうか。</p>
社会教育課長	<p>雨が降った場合はできませんので、講習室で映像を見ていただいたり、あるいはボランティアガイドの方にお話ししていただいたりするなどして説明したいと思います。</p>

	す。
杉尾委員	ボランティア育成は、地元の高齢の方を中心に育成されるのか、西都市内で都於郡城に興味を持たれている方を含めた育成なのか、いかがでしょうか。
社会教育課長	全てです。
市長	委員会での報告でしか判断できないですが、教育的施設にするのか、観光施設にするのかということが一つの論点になっているのだと思います。教育的施設であればこれほどのものは必要ないんじゃないかというのが委員会での意見だと思います。観光施設であれば当初の計画では10万人集まるということですが、果たしてそこまで人が集まるのかということが議会の中で出てきたことかなと思います。教育的施設であれば教育内容に携わるものを委員会で練って、観光施設であれば商工観光課や市観光協会としっかり連携をとった中で進んできたのか、きてないのかというのが委員会での論点になっているのかなという気がします。橋口委員が言われたように白紙になることはありませんが、全てが無料でいいのかということも議会に出てきてますし。やってみたら全然違うじゃないかとなるといけませんので。
橋口委員	入場料が無料なのはどうしてですか。
社会教育課長	西都原考古博物館が無料で、それに倣って歴史民俗資料館も西都原考古博物館ができた年に無料になりました。西都原考古博物館でお金をとってれば、ガイドンスセンターでもとるということになりますが、ガイドンスセンターだけとなるとなかなか難しいです。
市長	西都原考古博物館は県の施設なので県と協議し、やはりとるものはとっていかないとだと思います。一般財源が主になってくるでしょうから、どこでそれを回収するかということになると、なかなかそのあたりが見えないので今いろいろと意見が出てきたのかなと思います。もう少し早い段階から議会や商工観光課、教育委員会で、いろんなものを協議した上で進んでいけばよかったのかなとも思います。社会教育課や都於郡で決めているので、なかなかうまくまとまってないという話を耳にするものですから、やはり庁議であったり、関係課と連携を取る中で進めていかないとこういうことが起こるのかなと思います。
橋口委員	市長がはっきり言われたので、論点がはっきりしました。単純に私だけの理解だと体験型の観光施設だと思っていたので、説明を聞くとどうして無料なのかと思いましたが。説明を聞く限りでは、コンセプトとしては教育的施設ではなく観光施設ですよ。
市長	商工観光課にはそういった相談もなかったということで、一緒になって進めること

企画政策係長	<p>ができなかったのが残念だなと私の立場からは思います。議会の委員会の中で建物自体は規模を縮小できないと説明していますが、骨組みをきちんとしてた中で事業を進めていかないと同じようなことがどんどん出てくると思います。教育委員の皆さんと私たちが同じ認識を持ってもらったほうがいいかなと思ったところでした。それでは4つ目のその他について説明をお願いします。</p> <p>右上に資料4と書かれたA4サイズの資料をお配りしております。「保護者・生徒アンケートの実施について」とありますが、現在市では市内の高校、妻高校と西都商業高校に在学している生徒の保護者の経費負担を軽減するための支援を行っております。内容としては(1)に記載していますが、現在の支援制度が効果的であるのか検証するため、また裏面になりますが、今後新たに制度を創設するにあたって保護者がどのような支援策を求めているのかを、今後施策を立てていく上で参考とするため、アンケート調査を行う予定としています。これについては本会の内容とは少し外れるかと思いますが、いい機会かなと思い、内容や対象、また新たな支援策としてこういったものは考えられないかといったことについて、ご意見いただけないかと思いお配りさせていただきました。</p>
市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今説明がありましたが、何か意見があればいただきたいということですので、何かあればお願いします。</p> <p>いつアンケートを実施するのですか。</p>
企画政策係長	<p>近々実施したいと思っています。</p>
池野委員	<p>裏面の大学進学に向けた予備校費の助成とは、夏休み期間中に高校生が予備校に通うということですか。学校で勉強しているのではないのでしょうか。</p>
企画政策係長	<p>学校での夏季講習もあるかと思いますが。それに加え、塾であったり予備校であったり、そういったものに通う場合、当然経費がかかりますが、その経費の助成ということで考えています。他所では県外の予備校への派遣も行っているようですので、需要があれば検討したいと思項目としてあげております。</p>
教育長	<p>私はイベント的なものは効果がないのではという気がします。</p> <p>例えば、高校を出た後に、大学4年間で200万出し、その後帰ってきて西都市に10年定住すれば返さなくてよいというような制度がよいかなと思います。定住させるための方法を考える必要があるのかなと思います。10年住めば結婚もするでしょうから、定住してくれるのではないかなと思います。長いスパンで考えられるようなお金の使い方ができればと思います。予備校に行くということは、逆に高校の先生を信用してないと思うんですね。それよりかは、大学はお金がかかり親は苦勞するでしょうから、そういったものの方が価値があるのではないかなと。</p>

橋口委員	<p>昔、妻高校で歴史始まって以来の好成績をあげた年があり、その時は放課後5時半から生徒を10名集めて、数学は私、英語はもう一人の先生で2時間講習を行いました。わざわざ予備校でなくても、こういった方法はありますし、ただ時間外に拘束されますので、そのあたりは頭においておくとういことと思います。また、難関大学へ進学した場合の支援ということですが、難関大学の定義がなかなか難しいですよ。例えば地元にある学校でも医学部はめちゃくちゃ難関ということもありますので、この表記の仕方を工夫されたほうがいいのかと思います。また、学校給食の導入ですが、先月、弁当の日に関して講演を聞いた際に、給食の趣旨をはき違える保護者がいるという話を聞きました。親が朝ご飯を作らなくていいというような発想に流れるという話を聞き、この項目はわざわざ設けなくてもよいのではと思ったところです。</p>
市長	<p>私は選挙公約の中で、高等学校の給食導入を掲げたのですが、これは地元でとれたものを地元の高校で提供したいという思いだったのですが、給食センターから今の状況ではできないと言われました。そのため、学校給食の導入については削除していただければと思います。今出た意見等を参考に担当課で手を加えてアンケートを実施していただければと思います。</p> <p>さて、協議・報告事項として全てを協議いただきました。こういった会議を年に1回、あるいは状況に応じて開催できるということですので、我々が共有すべき案件が出てきたときには、委員の皆様には招集をかけたいと思いますので、ご協力をお願いします。本日も協議いただいた3つの案件については、現状の報告と今後の予定についてご意見をいただきましたが、今後も担当課と意見交換しながら、教育委員会の中での委員会等もあるかと思っておりますので、また皆さま方でも協議していただければと思います。</p>